



患者相談窓口の充実

院長 林 富



こども病院の外來入り口を入るとまず目につくのは佐藤忠良氏の「おおきなかぶ」のレリーフです。左に曲がるとギフトショップがあって、その先に「家族支援室・医療福祉相談コーナー」があります。

開院以来、「家族支援室・医療福祉相談コーナー」はご家族の種々の相談を受ける患者相談窓口でした。平成26年4月からその機能を充実し相談しやすくすることを目的として「なんでも相談窓口」を追加し、元ボランティアコーディネーターの星しげ子さんに担当をお願いしました。

「なんでも相談窓口」には、この1年間に2,859件の相談がありましたので平均すると毎日およそ10件程度になります。相談時間は平均10分～30分ですが、中には1時間を超える相談もありました。相談内容の66%が「在宅療養・退院支援」に関するもので、32%が医療福祉（公費申請など）でしたが、心理・精神発達の相談や疾病に関する相談もあり多岐に渡っていました。ご家族にとって在宅療養や退院後の生活は大きな不安材料です。特に在宅療養は小児医療の領域においても今後ますます増加し重要性を増していくものと考えられ、継続的な多面的な支援を必要とします。



なんでも相談への対応には、在宅療養支援担当看護師や臨床心理士、ソーシャルワーカー、分教室の教師などとの連携で解決を図っており、「なんでも相談窓口」が文字通り「相談の最初の窓口」としての機能を果たしています。

最近、患者相談窓口に関するアンケート調査を行いましたところ、どこにあるのか解りにくいというご指摘を頂きましたので、入り口に大きな看板を取り付けることにしました。相談しやすくして解りやすくして安心できる窓口であることを願っています。

病院理念

- 私たちは、こどもの権利を尊重し、こどもの成長を育む心の通った医療・療育を行います。
- 私たちは、高度で専門的な知識と技術に支えられた、良質で安全な医療・療育を行います。

病院の基本方針

- ① チーム医療、成育医療及び総合的な療育プログラムを実践し、温かい医療・療育を行います。
- ② こどもの成長・発達に応じたきめ細やかな医療・療育を行い、自立の心を育みます。
- ③ 一人ひとりの成長・発達に寄り添い、安全で潤いのある療養・療育環境を整えます。
- ④ 小児医療と療育の中核施設として、地域の関係機関と連携し、患者や家族の地域での生活を支えます。
- ⑤ こどもや家族と診療・療育内容の情報を共有し、情報公開に努めます。
- ⑥ 自己評価を行い、外部評価を尊重するとともに、業務の改善や効率化を図り、健全経営に努めます。
- ⑦ 臨床研究及び人材の育成を推進し、医療・療育水準の向上に貢献します。
- ⑧ 職員の就労環境を整備するとともに、職員の知識・技術の習得を支援します。

Contents

| | |
|--------------|---|
| 部門紹介 | 2 |
| 成育支援局看護師の紹介 | 3 |
| ボランティア紹介 | 3 |
| 登録医の先生のご紹介 | 4 |
| 新病院棟建築工事進捗状況 | 5 |
| 院内サークル紹介 | 6 |
| 行事予定 | 6 |
| 編集後記 | 6 |



日本医療機能評価機構
認定第JC1934号

当院は日本医療機能評価機構の認定病院です。

部門紹介



産科

(科長 室月 淳)



左より室本 仁 医師、室月 淳 科長、和形 麻衣子 医師、原田 文 医長

4月から原田文が産休から復帰、和形麻衣子が新たに赴任し、医師4人体制で産科およびMFICUを運営しています。こども病院のなかの産科として、胎児になにか問題のある妊婦さんが県内および近隣各県から紹介されてくることが多く、胎児診断、胎児治療、遺伝カウンセリングなど専門に特化した診療をおこなっていますが、愛子・落合といった病院近隣地区の住民のための正常妊娠分娩も余力でとりあつかっています。双胎間輸血症候群に対する胎児鏡下レーザー手術、無心体双胎に対する超音波ガイド下ラジオ波焼灼術、胎児輸血、子宮内シャント術といった侵襲的胎児治療を得意としています。また東北大学大学院の連携講座が置かれており、臨床研究も並行して続けています。メンバーはさまざまな大学の出身者の混成ですので、チームワークをもっとも大切にしており、朝の抄読会と昼のミーティングは毎日欠かしません。日々おかあさんとあかちゃんの幸せをめざして産科診療をおこなっていますが、胎児疾患の一部では悲しい結果となることもあります。流死産や早期新生児死亡のご両親の心理的サポートなどにも力を入れています。

理学療法

(上席主任理学療法士 松田 由紀子)



左より 松田 由紀子 上席主任理学療法士、吉田 さやか 理学療法士

こども病院には理学療法士(Physical Therapist: PT)が2名います。NICUの赤ちゃんや、入院中や外来で通ってくるこどもも担当しています。

理学療法は“体を動かすこと”を通してこども達の身体機能や発達や生活に介入します。

NICUでは、発達段階を赤ちゃんの運動の様子から診ています。快適な姿勢作りのお手伝いもします。

入院中は、呼吸が楽になるための体操や姿勢管理、術後のベッドから起き上がり日常生活に戻るための準備、治療期間に低下した体力の改善、在宅に向けて呼吸器を載せて移動できるバギーなどの準備、そして入院生活の中で発達支援を行っています。

外来は、赤ちゃんから学校を卒業した方々まで来ています。生活のペースとなる家庭や園・学校での姿勢や移動方法や靴の検討・日常の運動プログラムの提案も行っています。

“病気があっても、動くことって気持ちいい”と感じてもらえるよう、ジャージ姿で汗をかきかき取り組んでいます。どうぞよろしくお願いします。

成育支援局看護師の紹介

(成育支援局 看護師 橘 ゆり)

成育支援局看護師は、在宅療養支援・外来での継続看護、訪問看護ステーションや保健師など地域との連携、看護相談を主に行っています。

外来通院中であつたり、これから退院を迎える患者さんとそのご家族が生活の変化や自宅での医療的ケアのイメージができ、安心して生活を送ることができるよう支援することを目標に活動を行っています。

具体的には病棟と外来の連携のための調整や在宅生活のアドバイス、必要物品の提供、医療機器業者との調整などです。地域との連携では看護サマリーの送付や訪問看護ステーションや保健師、学校などと連携をとり、安心して地域での生活ができるよう連絡・調整をしています。『橋渡し』をキーワードにし、これからも院内の各部門との連携に留まらず、地域との密な連携を大切に、患者さん・ご家族の支援を行いたいと思います。

二人体制となり、互いに連携をとりながら共働しておりますので、いつでも気軽に声を掛けて下さい。



鈴木 ひろ子 主任看護師

橘 ゆり 看護師

ボランティア紹介 病棟個別訪問活動を通して

(ボランティア 麓 久仁江)

『学校の宿題や手芸を手伝ってほしい』とお声があり高校生のAさんの個別訪問をすることになりました。闘病生活の長いAさんには、字を書くこともアイロンビーズの一粒を枠に入れるのも大変な作業です。その日の体調に合わせて、ちぎり絵や絵手紙、粘土細工、ミシンがけやクッキー作りなど本当に沢山の作業を提案して下さったのはAさんのお母さんです。



時にはAさんの作業を辛抱強く見守り、時にはお喋りが弾み大笑いしたり、毎回楽しくあっという間の一時間でした。

入院生活の中にボランティアが関わることで、患者さんや付添いの方の気分がリフレッシュされるお手伝いができるのは、嬉しいことです。また病棟訪問の機会がありましたら是非、お手伝いをさせて頂きたいです。

地域医療連携室だより

登録医の先生のご紹介

たかだこども医院 (宮城郡利府町)

院長 高田 修 先生

〒981-0124 宮城県宮城郡利府町沢乙東1-14
TEL 022-767-6555 FAX 022-767-6556
<http://takadakodomo.byoinnavi.jp/pc/>



こんにちは。たかだこども医院です。当院は平成9(1997)年に開設しました。地域医療連携室のみなさんには、いつも親切・丁寧に対応していただいております。ありがとうございます。

当院の院長は、昭和58(1983)年に東北大学医学部を卒業して国立仙台病院(現・仙台医療センター)で初期研修を受けました。当時は加納一毅先生がおられ、肺動脈弁狭窄のバルーンカテーテル治療を全国に先駆け開始した時でした。その感動もあり東北大では心臓グループに所属。昭和60(1985)年には仙台日赤NICUへ半年間出務して、サーファクテンの治験にも遭遇しました。その後の未熟児呼吸管理の劇的改善には目を見張ったものです。大学に戻ってからは周産母子部で堺武男先生にもお世話になりました。

平成4(1992)年より秋田市・中通総合病院小児科で心臓病と新生児診療に従事。勤務医でありながら学校医も体験しました。かわいい養護教諭にいろいろ頼られることが心地よく、地域医療の可能性を感じて開業医を志しました。



開業当初はHibや肺炎球菌の耐性化が問題となっており、抗生物質の使用を抑えるようになりました。インフルエンザにアマンタジンが効く事を知り、経口補水療法の普及により点滴もなくなり、イモバックスの輸入・接種にも挑戦しました。心の診療へのニーズが増えたため、医院の2階にファミリーサポートルーム「なないろばし」も開所しました。

これからも日々医療は進化し改善していくことでしょう。なんとかついて行きたいと思います。

ファミリーサポートルーム「なないろばし」

臨床・放射線・病理カンファレンス(CRPC)のお知らせ

地域医療研修会の一環として、臨床・放射線・病理カンファレンス(CRPC)を下記日程で開催予定です。当院診療部より2例提示予定で、当日参加の登録医療機関の先生方からの症例提示も歓迎いたします。

なお、詳細は、順次別途案内通知をさしあげるとともに、当院ホームページに掲載いたします

<http://www.miyagi-children.or.jp>

トップページの最新情報をご覧ください。

本カンファレンスは、日本医師会生涯教育講座認定(1単位)申請予定です。

- | | | | |
|------|----------------|-------------|---------------------|
| 第34回 | 平成27年 9月 9日(水) | 18:00~19:00 | 場所: 宮城県立こども病院 愛子ホール |
| 第35回 | 平成27年12月 9日(水) | 18:00~19:00 | 同上 |
| 第36回 | 平成28年 3月 9日(水) | 18:00~19:00 | 同上 |

※本年度より開始時間が18:00となりました。ご留意お願いいたします。

宮城県立こども病院 地域医療連携室

〒989-3126 仙台市青葉区落合四丁目3-17
TEL:022-391-5115(直通) FAX:022-391-5120(直通)
開室時間/月~金曜日の8:30~17:15(祝日、年末年始は除く)

新病院棟建築工事進捗状況

— 拓桃医療療育センター・拓桃支援学校整備事業 —



※上記写真4枚は、すべて2015年6月25日撮影



こども病院
(本館)

拓桃館

拓桃支援学校

2015年6月29日現在の様子

左上の写真は宮城県立こども病院開院当初のものです。
比べていただくと、左端が宮城県立こども病院本館、右側に「拓桃館」、さらにその右側に「拓桃支援学校」の建物がほぼ完成しています。

宮城県立こども病院 院内サークル紹介



軽音楽部

(放射線科 科長 島貫 義久)

こども病院軽音楽部(以下軽音部)は2008年11月に音楽好きの職員7名で結成されました。現在では臨時部員を含め、おおよそ15名前後で活動しています。

軽音部は同年12月のクリスマス会でデビューし、翌年2月の新年会で初めて当院職員の前で演奏しました(曲名は、なぜか”悲しみがとまらない”でした)。

その後、しばらくはクリスマス会や新年会で演奏する「冬季限定バンド」でしたが、2011年5月に「第50回まほうの広場コンサート」で演奏し、8月に



は「蔵王七夕難病キャンプ」(主催:難病のこども支援全国ネットワーク)に初出演をはたすなど、徐々に活動の場がひろがり、現在では「それなりに通年バンド」になってきています。本年3月の「第117回まほうの広場コンサート」では「軽音部+林院長+入院中のこどもさん」の夢の共演が実現しました。



これまでの演奏曲目数は70を超え、昭和の懐メロからジャズまで幅広いジャンルをカバーしています。また、聞くとところによるとCDを自主制作するプロジェクトが密かに進行中とのことです。

これからも、音楽の持つ不思議な力を、病気と闘っているこども達や家族・職員と分かちあっていきたいと思います。今後のこども病院軽音楽部の活動にご期待ください。

行事予定

- 7月 3日 カリカチュア
- 7月 7日 ラフターヨガ
- 7月 14日 第121回まほうの広場コンサート
- 7月 17日 宮城学院女子大学あっとほーむコンサート
- 7月 28日 スマイル・ホスピタル・ジャパン宮城
- 7月 28日 第122回まほうの広場コンサート
- 7月 31日 夏祭り
- 8月 7日 アロマハンドマッサージ
- 8月 11日 第123回まほうの広場コンサート
- 8月 20日 第124回まほうの広場コンサート
- 8月 25日 スマイリング・ホスピタル・ジャパン宮城
- 9月 8日 第125回まほうの広場コンサート
- 9月 9日 第49回クリニクラウン訪問
- 9月 23日 ダンロップ杯女子オープンゴルフトーナメント出場選手訪問
- 10月30日 ハロウィン祭

編集後記

前回の広報紙をお届けしてから、あっという間に時が過ぎ、夏至も終わり昼間の時間が徐々に短くなる季節になりました。

いま、地域医療連携室からは工事中の拓桃医療療育センター:「拓桃館」がよく見えます。すでに、工事の足場や、防音・事故防止のシートが取り払われ、その全貌をみる事ができます。主要な工事は、外装工事から内装の工事に移っているようです。建物の工事と並行して、「拓桃館」前のエントランスや駐車スペース、タクシーの待機所等の工事も進んでいます。「拓桃館」の東側に建設中の拓桃支援学校もほぼできあがっているようです。「拓桃館」が完成した後に本館の改修工事が始まり、職種によってはプラットホームが「拓桃館」に移ります。地域医療連携室も現在の場所から本館一階の成育支援局内へ移動を予定しています。

宮城県立こども病院は、来年春頃には、急性期から、リハビリ、慢性期、在宅までを広くカバーする小児周産期医療の専門病院として新たにスタートします。これからも、関連機関の皆様にも、当院の最新の情報や話題をおとどけしたいと思いますので、どうぞご高配をよろしくお願い申し上げます。(地域医療連携室主任 真嶋 智彦)

地方独立行政法人 宮城県立こども病院

〒989-3126
宮城県仙台市青葉区落合四丁目3-17
TEL:022-391-5111 FAX:022-391-5118
<http://www.miyagi-children.or.jp/>

広報委員会

委員長 田中 高志
広報委員 虻川 大樹 天江新太郎 今泉 益栄 安達 恭子
伊深 智啓 岩崎かおり 北村 倫子 櫻井奈津子
佐々木正臣 佐藤 芳則 富岡 聖弥 真嶋 智彦
松谷ひとみ 三上 静香 横内 由樹 吉田さやか

